てっぺんの葉っぱ

巻き戻せない時間のなかで

6年　R・Iさん

「あの時に戻って、やり直せたらいいのに」

私はこれまでに、何度この言葉を心の中でつぶやいただろう。友達とつまらないことで言い合いになり、気まずい空気のまま帰った日。テストでうっかりミスをして、ひどい点数をとった日。あの瞬間に戻ってすべてをなかったことにできれば、やり直すことができればどれだけ楽だろう。後悔するたびに、私はいつも自分の都合の良い言い訳ばかりを探していた。

だから、一回だけ願いがかなう「てっぺんの葉っぱ」を手に入れた主人公のマチが、時間を巻き戻そうか本気で悩む姿は、まるで私自身を見ているようだった。マチは、仲良しのユリアちゃんに言われて窓から水を捨て、それを運悪く副校長先生にかけてしまう。先生にひどく叱られ、さらにユリアちゃんとも気まずくなってしまう。私だったら、迷わず葉っぱを使って、水を捨てる前の時間に戻していただろう。失敗の責任から逃げ出し、何事もなかったかのような顔をして、ユリアちゃんと笑いあっていたはずだ。

しかし、マチが最後に選んだのは、魔法に頼らないことだった。彼女は、時間を戻して失敗を消すのではなく、自分の頭で「これからどう行動するか」を考える道を選んだのだ。

この結末を読んだとき、私の胸にすとんと落ちてくるものがあった。もし魔法で時間を巻き戻して、失敗をなかったことにしても、それはただ「自分が傷つかないように逃げた」だけに過ぎない。失敗という事実をごまかしたまま過ごした時間は、一見平穏でも、どこか偽物のような気がする。マチが向き合おうとしたのは、先生やユリアちゃんだけではない。「ごまかして生きる自分自身」から逃げない覚悟を決めたのだ。

現実の世界に、都合の良い魔法の葉っぱは存在しない。時間は常に、前へ向かって一方通行で進んでいく。だからこそ、私たちは失敗した後にどうするかを、自分の頭で必死に考えなければならないのだ。これからは、後悔するようなことがあっても、過去を消そうとするのはやめようと思う。巻き戻せない時間のなかで、失敗を抱えながらも、自分の足で一歩を踏み出せる人間でありたい。